

# 農業委員会だより

きたみ 27

発行・編集

北見市二農業委員会だより編集委員会

（事務局 北見市大通東6丁目3番地）  
TEL 0157-25-1190  
FAX 0157-26-5573  
E-mail nochi@city.kitami.lg.jp



## 主な内容

- 担い手 ～農事組合法人豊北うるおいファーム（常務理事 加藤貴善さん）
- 新規就農 ～古瀬 柁己さん（北陽地区）
- 農の匠 ～辻本 伸介さん（相内地区）
- 東海林委員が表彰を受けました！
- 優良農村青年表彰
- 北見市長より農地等利用最適化の推進施策に関する意見・要望の回答がありました！
- 令和2年度「農地パトロール」の実施について



# 担い手



農事組合法人 豊北うるおいファーム  
常務理事 加藤 貴善さん(49)

豊北地域は畑作を中心に水稲・酪農が多く、近年は家族経営を主体とした19戸の農家が営農しており、平成28年に地域の農事組合で今後の農地流動化の方向性について声があがり、JAと先進地に行き話を聞くなどしてきました。その後も勉強会の開催やアンケートを実施する中で、改めて高齢化などによる離農と後継者不足により、一戸当たりの耕作面積の増大が大きな課題として確認されました。

バーで、農事組合法人「豊北うるおいファーム」を設立することができました。春作業から一緒に作業を開始したものの、初めての作業であったり、これまでの段取りの違いなどに戸惑ったりしたこともありましたが、その様なときは、都度、話し合い解決するようにしてきました。

畑作3品を中心に、水稲、豆類、加工にんじん、香辛料用シソなど165haを耕作しており、役員を含め8人の従業員で営農しています。設立時には広島県の農業大学を卒業した若者が一緒に作業をしてくれたり、今年から、地域おこし協力隊で活動していた若者も仲間に加わることに、新しい若い力で農作業も活気が出てくると思います。そのほか、農繁期には、パートの奥さんたちにも手伝ってもらっています。その際の除草は、壮観で法人のすごいところでもあります。

設立したばかりですが、法人の理念にある地域における農地の流動化や食育活動を通じた消費者との交流・魅力発信、スマート農業の導入、いち早く取り組んでおり、今後ともこの法人が地域の先頭に立ち、農業に『魅力』を感じ、生活に『うるおい』を持てる経営をしていきたいと思います。

# 農の匠

相内地区 辻本 伸介さん(62)



女性農業委員の芝山さんからスマホに呼び出しコール。

特段の用件は思いあたらなかったが、恐る恐る出てみる。

『辻本さん、私、農業委員会だよりの編集委員やっています。それで今回辻本さんをお願いしたいのですが。』

なんと「農の匠」、自分にはまったく不釣り合いな原稿依頼であった。

もう3年前近くになるかな、女性農業委員の推薦の関係でお願いしたことがあった手前、断ることもできずまっさらな原稿用紙3枚を受け取って別れた。そこから私の苦難の日々が始まる。【匠】とは、優れた技術を持つ人。自分にはそんな技術など備えてない。

学校を卒業して、会社勤めを3年。自分が農家の長男坊でどこかで俺が継がなきゃと思っていたのか。就農。

農家の息子だからそれなりに親の仕事を見てきていたつもりではあったが…。見るのと実際にやるのとは、大違い。まずは農の難しさを実感した。

毎年農業は一年生と言われ、自分もそれなりに努力を重ねてきたつもりだが、もう農業歴では小学校は卒業していた。だが周りの先輩たちには手も足も出ない。また、後から入ってきた後輩が、くんくん力をつけて追い越してゆく。自分が農の厳しさに対して向き合うこと事の足りなさを知った。

自分には【農の匠】の武器は持ち合わせていない。ならば【匠】には成れなくてもいいから、それに近づく努力をしよう、そう思った。だが思った以上に努力なんてできるものではない。挫折までとはいかないが、途中で心が折れそうになることも多く、妥協と言葉の誘いもあった。このままここで止めてしまえば楽になるなと思ったことも幾度あった事か。

努力は決して裏切らないと言つ人も沢山いるが、買っても買っても当たらない宝くじと同じようなこともよくあった。それでも、作物を我が子のように毎日見ることに腐心し今日まで来た。

【農の匠】は成れなかったと思うけど。やはり努力は、裏切らないかもしれない？

# 新規就農

北陽地区 古瀬 柁己さん(24)



私が就農し2年が経ちました。時というものは振り返ればあっという間で、ついこの前農業を目指し始めたと思えば2年が過ぎています。

元々、幼少期より家業である農家の仕事を手伝っていたのですが、高校を卒業後、簿記を勉強したいと思い、札幌の専門学校へ行き2年間勉強したのち帯広で就職しました。その後1年間就業して自分が考えていた仕事と違い、実家に就農しました。学校で農業を学ぶことは無かったため、ゼロからの出発でしたが、普及員の方や両親、そして地域の諸先輩方に教えてもらい、かつ支えられて農業を続けています。

農業の知識はまだ浅く、農薬の名前、効果、防除の方法等々わからないことはかなりで、少しずつ周りから教えてもらいながら勉強しているところです。

特に農業関係は、カタログで見たような知識しかなく、これから学ばなければならぬと痛感しています。

今年私が挑戦したいことは収穫機に乗ることです。現在父が収穫機に乗っていて、私がすることはその下回りや整備などなので、技術はまだ皆無に等しいですが、少しでも早く経験を重ねて両親に楽をさせてあげたいと思っています。

これからの目標は少しでも早く知識面や技術力で両親や先輩方に追いつくことです。また3年目に入ろうとする新人ですが、一歩一歩確実に諸先輩方のような立派な農家に一日でも早くなれるよう努力していきたいです。

これから本格的に農作業が始まろうとしています。農作業事故や災害など起こらぬよう注意を徹底して今年度も頑張っていきたいと思っています。

# 東海林委員が表彰を受けました！



そこで、受賞者本人にお気持ちをインタビューしてみました。

Q. 表彰を受けるにあたり、今どのようなお気持ちでしょうか。

A. 長いようで短いとも勉強になった17年でした。

Q. 農業委員になってから今までの思い出は何ですか。

A. 1市3町が合併し、さらに4つの農業委員会が合併したことで、色々な人や農業を知る事ができました。

Q. 農業委員として心掛けてきたことは何ですか。

A. できるだけ多くの農家が農業を続けられる様、また、やる気のある後継者がいる経営規模の小さい農家へ農地を回す様に努めています。

Q. 地域の農業者へ一言あればお願いします。

A. 国際競争に勝つ大規模農家ばかりを造ると、地域崩壊に繋がるので2種類の農家があってもよいと思います。1つは大規模農家、もう1つは、家族経営の農家です。地域に人が残らなければ、消滅してしまいます。農家が農業を続けるために、条件の悪い農地は農地から外すことも必要になってくると思います。

この度、第二農業委員会留辺薬班の東海林委員が令和元年度農業委員永年勤続表彰を受けました。

この表彰は農業委員を通算17年以上務めた方に贈られる賞であり、東海林委員は農業委員として長年にわたり、農地関係法令の適正な事務と地域農業の振興に努め、農業の発展に尽力してきました。



# 優良農村青年表彰



山本 将大さん



会田 佳弘さん



森谷 利隆さん

この度、森谷利隆さん（北見）、会田佳弘さん（端野）、山本将大さん（常呂）の3名が優良農村青年としてオホーツク農業委員会連合（会長より表彰を受けました）。

この表彰は、過去3年以上農業の担い手として従事し、農業技術の普及や推進、グループ活動に対して指導力を発揮した農業青年に贈られるものです。

## 北見市長より農地等利用最適化の推進施策に関する意見・要望の回答がありました!

二農業委員会では、昨年7月に標記意見・要望書を北見市長に手交いたしました。この意見・要望書では、農業委員会等に関する法律に基づき、農業委員会の最重要業務として位置づけられている、農地等の利用の最適化である、「担い手への農地利用の集積・集約化」、「遊休農地の発生防止・解消」、「新規参入の促進」について、さらなる推進のため必要となる施策について提言しています。

これらの意見・要望に対し、北見市長より本年2月に回答書をいただきました。回答では、本市の基幹産業である農業においては、特に担い手の確保と農業経営の効率化が重要課題であり、問題解決には農業に関係する機関・団体の協力が不可欠であるとの見解が示されています。

意見・要望に対する個別の回答につきましては、農業委員会のホームページでご覧になれます。

URL : <http://www.city.kitami.lg.jp/docs/2012022300097>

## 令和2年度「農地パトロール」の実施について

農地パトロールは、①地域の農地利用の確認、②遊休農地の実態把握と発生防止・解消、③違反転用発生防止・早期発見を目的として、毎年実施しており、農業委員会の重要な業務の一つとして取り組んでいます。

※本年度の実施期間は、7月～8月頃を予定しています。



**農作業事故を防止しよう。**  
**「コストップ 農作業事故!」**

春の農作業が本格化する季節です。農作業時の事故や公道での一般車両と農業機械との接触事故など、十分ご注意ください。ゆとりをもって安全な農作業で事故を防ぎましょう。

## 表紙 「玉葱移植風景」 常呂町字日吉地区



(中野編集委員長 記)

今年の冬は雪が少なかったため土壌凍結が深く、秋蒔き小麦の越冬状態等が気になります。1月に入り、中国で猛威を振るう新型コロナウイルスが日本に上陸、瞬く間に社会や経済等多岐に渡り影響を及ぼしています。北海道では緊急事態宣言が出され、北見市でも感染者が発生し、今なお増加中（3月下旬時点）との事ですので、手洗い等予防に留意する事が肝要です。今年7月には、農業委員の改選です。今期の編集委員である私達が発行する広報誌は、今号で最後です。これまでの皆様のご協力に感謝申し上げ最後の編集後記と致します。この3年間ご愛読ありがとうございました。

## 編集後記